

# 霜注意報に伴う農作物等の管理対策

平成29年 3月31日

新潟県農林水産部

3月31日14時47分新潟地方气象台から県内全域に霜注意報が発表されました。山沿いでは、最低気温が0℃以下となる予報も出ています。霜の降りやすい時期でもあることから、今後も以下の管理対策を参考として農作物等の管理に十分注意してください。

## 野菜

### 1 一般的な対策

- (1) 育苗中は、日中育苗ハウス内の換気を行い、かん水は少なめにして苗の徒長を防ぐ。
- (2) 育苗後半は、夜温を低めに調整して苗の馴化に努め、定植に備えて外気に慣らしておく。  
また、定植が遅れる場合は、鉢等の間隔を広げ、軟弱徒長を防止する。
- (3) 定植前のマルチ、トンネルの被覆は、定植の7日前頃までに行って地温の確保に努め、活着を促進する。
- (4) 定植作業は、温暖な日に行い、午後3時頃までに終了する。

### 2 霜注意報発表時の対策

- (1) 定植を予定している場合は、作業を延期する。
- (2) すいか・メロン等トンネル栽培で、定植直後の場合は、トンネル内に不織布をべたがけして夜間の保温に努める。
- (3) 砂丘地のすいか等は、降霜時刻に併せてスプリンクラーかん水（散水）を行う。
- (4) 施設栽培は、夕方早めに内張り資材を被覆して、温度保持に努める。
- (5) 無加温ハウスは、夜間低温時に必要に応じてストーブ等で加温を行う。
- (6) 降霜後、霜害の程度が軽く生育の回復が見込める場合、液肥の葉面散布やかん注を行い草勢の回復に努める。

## 果 樹

### 1 一般的な対策

- (1) もみがらや稲わらによるマルチ栽培は、地面からの放熱による樹木の保温効果を妨げるため、晩霜の危険期が過ぎてから行う。
- (2) ハウス施設は、ビニールの破損箇所を点検補修して保温に努める。

### 2 霜注意報発表時の対策

- (1) 専用固形燃料や「せん定枝チップ+灯油」等による燃焼法や防霜ファンを稼働させる等の応急対策を講じ、園内の空気対流に努める。
- (2) 展葉期頃までのいちじくの一文字仕立栽培では、多孔質マルチシートやアルミ蒸着シートで樹体を覆う。
- (3) 無加温ハウスで、夜間から早朝にかけて低温が予想される場合は、午後早めにハウスを閉めて保温に努める。また、必要に応じてストーブ等で加温を行う。
- (4) 土壌の過乾燥は霜害を受けやすいので、かん水等により湿らせておく。

## 花 き

### 1 一般的な対策

- (1) 球根養成栽培では、茎葉が霜害を受けると、細菌性病害や褐色斑点病等の発生が懸念されることから、予防的な防除を行う。
- (2) 施設切り花栽培では、施設内の急激な温度・湿度変化を避け、高温多湿にならないよう日中の換気やかん水等に注意し、耐寒性を高めるような管理に努める。

### 2 霜注意報発表時の対策

- (1) 施設切り花栽培では、夕方早めに内張り資材を被覆して温度保持に努める。
- (2) 無加温ハウスでは、夜間低温時、必要に応じてストーブ等で加温を行う。

## きのこ

- (1) 霜の発生が懸念される場合は、きのこの品種や生育状況に応じた適切な温度管理に努める。
- (2) 生育状況の把握に努め、異常が認められた場合は、適切に対応する。